

## 水稻の管理

①出穂が始まりました。出穂期から穂揃い期はもっとも多くの水分を必要とします。間断かん水を基本としますが、2～5 cmの水深を保ち、異常高温時は湛水して稲を保護します。

②斑点米カメムシ防除は、出穂前の地域ぐるみの一斉防除（品種や早晚性を問わず）が効果的です。その後は、穂揃い期と穂揃い期 7～10 日後の基本防除を徹底し、薬剤はカメムシ類の生息する畦畔にも充分かかるように散布します。

草刈を行う場合は、草刈後速やかに防除を行うよう計画する。刈り取った草は放置せず搬出する。

③葉いもち病は、穂いもち病の多発につながります。

カメムシの防除と併せて、穂孕み後期、穂揃い期の 2 回を基本に、発生の多い場所では穂揃い期 7 日後の追加防除を行う。

\*発生や出穂状況に合わせ適切な防除を行いましょう。

# 熱中症防止対策

- ① 十分な睡眠をとる。
- ② 朝、夕の涼しい時間に作業する。
- ③ こまめな水分補給と適度な塩分補給。
- ④ 体調が悪くなったら涼しい場所へ移動し、応急処置を行い、速やかに医療機関を受診する。